

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Ohashi H, Arita K, Suzuki Y, **Tomita A**, Naoe T, Hattori A, Tatsumi Y, Kato K, Nagai H. Iron chelation therapy for a case of transfusion-independent MDS-RARS with significant iron overload. *Int J Hematol.* **2012** Dec 4.
  2. Oki Y, Kondo Y, Yamamoto K, Ogura M, Kasai M, Kobayashi Y, Watanabe T, Uike N, Ohyashiki K, Okamoto SI, Ohnishi K, **Tomita A**, Miyazaki Y, Tohyama K, Mukai HY, Hotta T, Tomonaga M.A phase I/II study of decitabine in patients with myelodysplastic syndrome: a multi-center study in Japan. *Cancer Sci.* **2012** Jul 21.
  3. Shimada K, **Tomita A**, Minami Y, Abe A, Hind CK, Kiyoi H, Cragg MS, Naoe T. CML cells expressing the TEL/MDS1/EVII fusion are resistant to imatinib-induced apoptosis through inhibition of BAD, but are resensitized with ABT-737. *Exp Hematol.* **2012** May 24.
  4. Yasuda T, Hayakawa F, Kurahashi S, Sugimoto K, Minami Y, **Tomita A**, Naoe T. B cell receptor-ERK1/2 signal cancels PAX5-dependent repression of BLIMP1 through PAX5 phosphorylation: a mechanism of antigen-triggering plasma cell differentiation. *J Immunol.* **2012** Jun 15;188(12):6127-34.
  5. Kato T, Terakura S, Murata M, Sugimoto K, Murase M, Iriyama C, **Tomita A**, Abe A, Suzuki M, Nishida T, Naoe T. Escape of leukemia blasts from HLA-specific CTL pressure in a recipient of HLA one locus-mismatched bone marrow transplantation. *Cell Immunol.* **2012** Mar;276(1-2):75-82.
  6. Saito H, **Tomita A**, Ohashi H, Maeda H, Hayashi H, Naoe T. Determination of ferritin and hemosiderin iron in patients with normal iron stores and iron overload by serum ferritin kinetics. *Nagoya J Med Sci.* **2012.** Feb;74(1-2):39-49.
  7. Sugimoto T, **Tomita A**, Abe A, Iriyama C, Kiyoi H, Naoe T. Chimeric antisense RNA derived from chromosomal translocation modulates target gene expression. *Haematologica.* **2012** Aug;97(8):1278-80.
  8. Hagiwara M, **Tomita A**, Takata K, Shimoyama Y, Yoshino T, Tomita Y, Nakamura S. Primary cutaneous CD30 positive T-cell lymphoproliferative disorders with aberrant expression of PAX5: Report of three cases. *Pathol Int.* **2012** Apr;62(4):264-70.
- ### 2. 学会発表
1. **Akihiro Tomita**, Takashi Tokunaga, Tatsuya Hirose, Keiki Sugimoto, Kazuyuki Shimada, Norio Kaneda, Hitoshi Kiyoi, Naoko Asano, Shigeo Nakamura, Tomohiro Kinoshita, and Tomoki Naoe. Rituximab Sensitivity to De Novo DLBCL Cells Showing the Specific Phenotype of CD20 Protein Immunohistochemistry-Positive / Flow Cytometry-Negative: Analyses of Its Clinical Significances and the Molecular Mechanisms. The American Society of Hematology, 54th Annual Meeting, Dec. 9, **2012**, Atlanta, GA, USA
  2. Chisako Iriyama, **Akihiro Tomita**, Hideaki Hoshino, Mizuho Shirahata, Yoko Hibi, Kiyofumi Yamada, Hitoshi Kiyoi, and Tomoki Naoe. Usefulness of Peripheral Blood Circulating DNAs As an Alternative to DNA From Bone Marrow Cells to Detect CpG Global Methylation Status and Genetic Mutations in Patients with Myelodysplastic Syndromes. The American Society of Hematology, 54th Annual Meeting, Dec. 9, **2012**, Atlanta, GA, USA
  3. Hiroki Mizuno, Takayuki Nakayama, Yasuhiko Miyata, Shigeki Saito, Nishiwaki Satoshi, Norihiko Nakao, Kyosuke Takeshita, **Akihiro Tomita**, and Tomoki Naoe. Mast Cells As a Therapeutic Target for Hodgkin Lymphoma: Bortezomib Inhibits Mast Cell-Induced Modification of the Tumor Microenvironment. The American Society of Hematology, 54th Annual Meeting, Dec. 10, **2012**, Atlanta, GA, USA
  4. Takashi Tokunaga, **Akihiro Tomita**, Tatsuya Hirose, Keiki Sugimoto, Kazuyuki Shimada, Hitoshi Kiyoi, Tomohiro Kinoshita, Tomoki Naoe. CD20 IHC+/FCM- DLBCL - the molecular mechanisms and the clinical significances. 第74回日本血液学会総会、(口演)、**2012**年10月20日、京都
  5. Chisako Iriyama, **Akihiro Tomita**, Yasuhiro Suzuki, Mizuho Shirahata, Yoko Hibi, Kiyofumi Yamada, Hitoshi Kiyoi, Tomoki Naoe. Peripheral blood circulating DNAs to detect CpG global methylation and genetic mutations in MDS. 第74回日本血液学会総会、(口演)、**2012**年10月21日、京都
  6. Kazuyuki Shimada, **Akihiro Tomita**, Yosuke Minami, Akihiro Abe, Charlotte Hind, Hitoshi Kiyoi, Mark Cragg, Tomoki Naoe. EVII elicits resistance to apoptosis which can be overcome through application of AKTi or

ABT-737. 第 74 回 日本血液学会総会、(口演)、  
2012 年 10 月 20 日、京都

7. 富田章裕. モノクローナル抗体治療薬に対する耐性メカニズムとその克服、第 10 回 日本臨床腫瘍学会総会、(シンポジウム)、2012 年 7 月、大阪
8. 富田章裕. 悪性リンパ腫における遺伝子情報をどう生かすか、第 74 回 日本血液学会総会、(口演、コーポレートセミナー)、2012 年 10 月 21 日、京都

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得  
該当無し。
2. 実用新案登録  
該当無し。
3. その他  
なし。

#### IV. 班會議關係資料

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業

## 特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 黒川峰夫)

### 重点研究

## 不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究

(研究代表者 小川誠司)

### 平成 24 年度第一回合同班会議総会

平成 24 年 7 月 13 日 (金) 13:00～ 伊藤国際学術センター

### 「特発性造血障害に関する調査研究」平成 24 年度第一回班員会議

平成 24 年 7 月 13 日 (金) 11:30～ 東京大学医学部附属病院第一会議室

### 「不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究」平成 24 年度第一回班員会議

平成 24 年 7 月 13 日 (金) 10:30～ 東京大学医学部附属病院第三会議室

### 合同検鏡会

平成 24 年 7 月 14 日 (土) 午前 10 時～12 時 東京大学医学部附属病院入院棟 A14 階北病棟カンファ室

ご発表の方は、CD-ROM もしくは USB メモリーを受け付けにお渡し下さい。ご発表の 30 分前にはお渡し頂きますようよろしくお願い申し上げます。

配付資料は一枚目の右肩に演題番号を□で記したものを 150 部ご用意下さい。

多くの演題の発表・討論がございますので、円滑な進行にご協力下さい。

### プログラム

開会の挨拶	黒川峰夫	(3 分)	(13:00-13:03)
厚生労働省 挨拶	厚生労働省健康局疾病対策課	(5 分)	(13:03-13:08)
1. 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告		(10 分)	(13:08-13:18)
	東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学 黒川峰夫		
骨髄線維症領域	座長 赤司浩一		
2. これまでの研究結果と今後の計画について		(3 分)	(13:18-13:21)
	九州大学 病態修復内科 ○赤司浩一		

3. 二次性骨髄線維症の全国調査 (5分) (13:21-13:26)  
 宮崎大学 消化器血液内科 ○下田和哉、北中明、  
 久留米大学 血液内科 岡村孝  
 九州大学 病態修復内科 竹中克斗、赤司浩一
4. 本邦の原発性骨髄線維症の臨床像 (5分) (13:26-13:31)  
 九州大学 病態修復内科 赤司浩一、竹中克斗  
 久留米大学 血液内科 岡村孝  
 宮崎大学 消化器血液内科 北中明、○下田和哉

#### 再生不良性貧血領域

座長 中尾眞二

5. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (13:31-13:34)  
 金沢大学医薬保健研究域細胞移植学・病態検査学 ○中尾眞二
6. 骨髄不全患者を対象とした HLA-A アレル欠失血球の検出:共同研究の提案 (10分) (13:34-13:44)  
 金沢大学医薬保健研究域細胞移植学 ○中尾眞二、丸山裕之、斉藤千鶴  
 金沢大学医薬保健研究域病態検査学 片桐孝和  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司

#### 赤芽球癆領域

座長 澤田 賢一

7. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (13:44-13:47)  
 秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科 ○澤田 賢一
8. 再発・難治性慢性赤芽球癆の後方視的調査研究の提案 (5分) (13:47-13:52)  
 秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科 澤田賢一、○廣川 誠

#### 骨髄異形成症候群領域

座長 宮崎 泰司

9. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (13:52-13:55)  
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設  
 分子医療部門分子治療研究分野(原研内科) 宮崎 泰司
10. 鉄過剰症に関する臨床研究:進捗状況 (5分) (13:55-14:00)  
 自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩  
 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 高後 裕、生田克哉
11. 再生不良性貧血および骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 (10分) (14:00-14:10)  
 京都大学 血液・腫瘍内科 高折 晃史、○川端 浩  
 神戸市立医療センター中央市民病院 石川隆之  
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃  
 川崎医科大学 検査診断学 通山 薫  
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也  
 東京大学 血液・腫瘍内科 黒川峰夫

12. TKI 治療経過中に新たな染色体異常が認められた慢性骨髄性白血病に関する全国調査 (5 分) (14:10-14:15)  
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設  
 分子医療部門分子治療研究分野(原研内科) 宮崎 泰司  
 香川大学医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 ○松永 卓也、今滝 修
13. 鉄過剰症に対する長期鉄キレート療法を可能にするための対策 (7 分) (14:15-14:22)  
 長崎大学原研内科 宮崎泰司、○波多智子、対馬秀樹
14. Deferasirox による血清鉄および不飽和鉄結合能測定系への影響 (5 分) (14:22-14:27)  
 旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野  
 高後 裕、○生田克哉  
 旭川医科大学消化管再生修復医学講座 佐々木勝則
- 15-1. hypoplasticMDS に対する全国調査の提案 (5 分) (14:27-14:32)  
 東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学 ○市川幹、南谷泰仁、小林隆、黒川峰夫
- 15-2. 家族性血小板異常症の調査研究 (3 分) (14:32-14:35)  
 東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学 ○市川幹、吉見昭秀、黒川峰夫
16. low risk MDS に対する azacitidine の維持療法の検討 (3 分) (14:37-14:40)  
 東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学 市川幹、○南谷泰仁、黒川峰夫

## 休憩

国立保健医療科学院 挨拶 国立保健医療科学院 (5 分) (15:00-15:05)

重点研究「不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究」班 座長 小川誠司

17. 不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究班 班長報告 (10 分) (15:05-15:15)  
 東京大学 医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト ○小川誠司
18. 骨髄異形成症候群における新規コヒーシオン複合体変異の解析 (10 分) (15:15-15:25)  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト 小川 誠司  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト 真田 昌  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト ○昆 彩奈
19. 造血器腫瘍における TET2 機能不全 (7 分) (15:25-15:32)  
 筑波大学医学医療系血液内科 坂田(柳元) 麻実子、千葉 滋
20. JALSG との共同研究による MDS 検体収集システム (7 分) (15:32-15:39)  
 筑波大学医学医療系血液内科 千葉 滋
21. DNA 脱メチル化剤による翻訳マシナリー活性化を介した赤血球分化 (15 分) (15:39-15:54)  
 広島大学原爆放射線医科学研究所がん分子病態研究分野 稲葉俊哉、○松井啓隆、金井昭教
22. 骨髄異形成症候群に対する検体集積事業の進捗状況 (5 分) (15:54-15:59)  
 京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学 高折晃史、○川端浩、  
 獨協医科大学 血液腫瘍内科 三谷絹子  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司

## 溶血性貧血領域

座長 金倉讓

23. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (15:59-16:02)  
大阪大学 血液・腫瘍内科 ○金倉讓
24. エクリズマブ投与後のPNH患者における血管外溶血顕在化の病態解析 (10分) (16:02-16:12)  
大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉讓、○山本正樹、大里真幸子、  
林悟、西村純一  
大阪大学微生物病研究所 木下タロウ、村上良子
25. クームス陰性自己免疫性溶血性貧血154例の解析 (5分) (16:12-16:17)  
自治医科大学地域医療学センター ○亀崎豊実、梶井英治
26. 発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)クローンの拡大機序の解析 (4分) (16:17-16:21)  
和歌山県立医科大学 血液内科 中熊秀喜、○花岡伸佳  
熊本大学感染免疫診療部 川口辰哉  
熊本大学血液内科 堀川健太郎  
熊本大学輸血・細胞治療部 米村雄士  
大阪大学微生物病研究所 木下タロウ、村上良子

## 小児科領域

座長 中畑龍俊

27. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (16:21-16:24)  
京都大学 iPS細胞研究所 ○中畑龍俊
28. 先天性素因を疑う分類不能骨髄不全症候群:小児骨髄異形成症候群中央診断事業の登録例より (5分) (16:24-16:29)  
聖路加国際病院小児科 ○長谷川大輔、金兼弘和、真部淳  
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学 濱麻人、小島勢二、
29. 移植後にドナータイプの造血不全を呈した再生不良性貧血に対する治療の試み (7分) (16:29-16:36)  
東海大学細胞移植再生医療科 ○矢部 普正、矢部みはる

## 造血幹細胞領域

座長 岡本真一郎

30. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (16:36-16:39)  
慶應義塾大学 医学部 内科血液研究室 ○岡本真一郎

## 疫学領域

座長 太田晶子

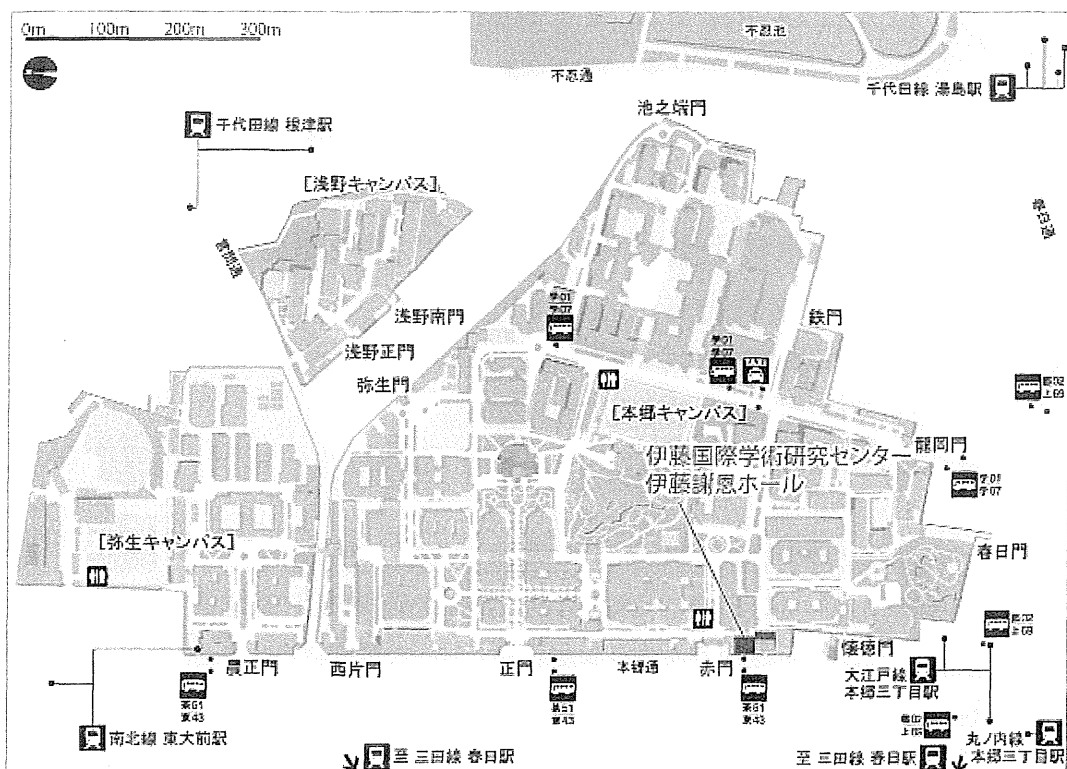
31. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (16:39-16:42)  
埼玉医科大学医学部公衆衛生学 ○太田晶子

閉会の挨拶

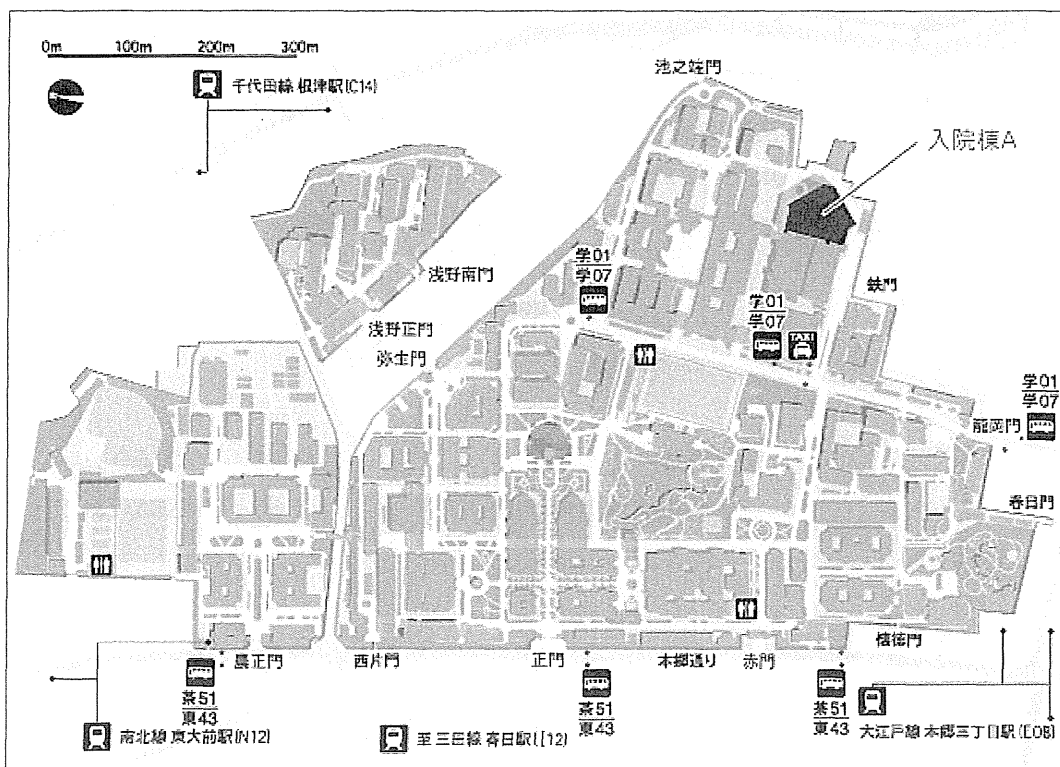
黒川峰夫 (3分) (16:42-16:45)

平成25年度第二回班会議 2013年2月8日(金) 東大構内

第一回合同班会議会場(伊藤国際学術センター)



7月14日 検鏡会会場 入院棟 A 病棟 14階





厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業

## 特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 黒川峰夫)

重点研究

## 不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究

(研究代表者 小川誠司)

### 平成 24 年度第二回合同班会議総会

平成 25 年 2 月 8 日 (金) 13:00～ 鉄門記念講堂

### 「特発性造血障害に関する調査研究」平成 24 年度第二回班員会議

平成 25 年 2 月 8 日 (金) 11:30～ 東京大学医学部附属病院第一会議室

### 「不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究」平成 24 年度第二回班員会議

平成 25 年 2 月 8 日 (金) 10:30～ 東京大学医学部附属病院第三会議室

### 合同検鏡会

平成 25 年 2 月 9 日 (土) 午前 10 時～12 時 東京大学医学部附属病院入院棟 A14 階北病棟カンファ室

班員会議総会でご発表の方は、CD-ROMもしくはUSB メモリーを受け付けにお渡し下さい。ご発表の一時間前にはお渡し頂きますようよろしくお願い申し上げます。

配付資料は一枚目の右肩に演題番号を□で囲って記したものを 120 部ご用意下さい。

多くの演題の発表・討論がございますので、円滑な進行にご協力下さい。

### プログラム

開会の挨拶	黒川峰夫	(3 分)	(13:00-13:03)
厚生労働省 挨拶	厚生労働省健康局疾病対策課	(5 分)	(13:03-13:08)
1.特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告		(5 分)	(13:08-13:13)
東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	黒川峰夫		
2.疾患特異的 iPS 細胞拠点との連携に関して		(5 分)	(13:13-13:18)
東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	黒川峰夫		
2.1 低形成性 MDS の全国疫学調査		(7 分)	(13:18-13:25)
東京大学 血液腫瘍内科	小林 隆、○南谷 泰仁、黒川 峰夫		

- 2.2. 低リスク MDS に対する azacitidine 維持療法を検討する前向き試験 (5分) (13:25-13:30)  
 東京大学 血液腫瘍内科 ○南谷 泰仁、黒川 峰夫

### 骨髄線維症領域

座長 赤司浩一

3. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (13:30-13:33)  
 九州大学 病態修復内科 ○赤司浩一
4. 二次性骨髄線維症の全国調査 (5分) (13:33-13:38)  
 宮崎大学 消化器血液内科 ○下田和哉、北中明、  
 久留米大学 血液内科 岡村孝  
 九州大学 病態修復内科 竹中克斗、赤司浩一
5. 本邦の原発性骨髄線維症の臨床像 (5分) (13:38-13:43)  
 九州大学 病態修復内科 赤司浩一、竹中克斗  
 久留米大学 血液内科 岡村孝  
 宮崎大学 消化器血液内科 北中明、○下田和哉

### 再生不良性貧血領域

座長 中尾眞二

6. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (13:43-13:46)  
 金沢大学医薬保健研究域細胞移植学・病態検査学 ○中尾眞二
7. 再生不良性貧血における HLA-A アレル欠失血球検出の意義:改良 FCM 法により検出される HLA-A 欠失血球と免疫抑制療法に対する反応性との関係 (10分) (13:46-13:56)  
 金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学 中尾眞二、○丸山裕之、斉藤千鶴、細川晃平、  
 山崎宏人
8. 再生不良性貧血患者の臨床像などに関する縦断的検討 (10分) (13:56-14:06)  
 国際医療福祉大学基礎医学研究センター ○島田 直樹  
 埼玉医科大学医学部公衆衛生学 太田 晶子

### 赤芽球癆領域

座長 廣川 誠

9. これまでの研究結果と今後の計画について (5分) (14:06-14:11)  
 秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科 ○廣川 誠
10. 再発・難治性慢性赤芽球癆の後方視的疫学研究の進捗状況 (5分) (14:11-14:16)  
 秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科 澤田賢一、○廣川 誠、藤島直仁
11. 慢性赤芽球癆における免疫病態:  $\gamma\delta$ T 細胞の役割 (5分) (14:16-14:21)  
 秋田大学 澤田賢一、○廣川 誠、道下吉広、藤島直仁

### 骨髄異形成症候群領域

座長 宮崎 泰司

12. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (14:21-14:24)  
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設  
 分子医療部門分子治療研究分野(原研内科) 宮崎 泰司

13. 鉄過剰症に関する臨床研究:進捗状況 (5分) (14:24-14:29)  
 自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩  
 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 高後 裕、生田克哉
14. 再生不良性貧血および骨髓異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 (10分) (14:29-14:39)  
 京都大学 血液・腫瘍内科 高折 晃史、○川端 浩  
 神戸市立医療センター中央市民病院 石川隆之  
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃  
 川崎医科大学 検査診断学 通山 薫  
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也  
 東京大学 血液・腫瘍内科 黒川峰夫
15. TKI 治療経過中に新たな染色体異常が認められた慢性骨髄性白血病に関する全国調査 (10分) (14:39-14:49)  
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設  
 分子医療部門分子治療研究分野(原研内科) 宮崎 泰司  
 香川大学医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 ○松永 卓也、今滝 修
16. IPSS-R の概要 (7分) (14:49-14:56)  
 長崎大学 ○宮崎泰司、波多智子  
 埼玉医科大学 松田 晃  
 川崎医科大学 通山 薫  
 東京大学 黒川峰夫  
 自治医科大学 小澤敬也
17. 自動分析装置対応 NTBI 測定試薬の開発 (5分) (14:56-15:01)  
 旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野 高後 裕、○生田克哉  
 旭川医科大学消化管再生修復医学講座 佐々木勝則
18. RUNX1 変異と BMI1 の協調作用による MDS 発症機序 (10分) (15:01-15:11)  
 広島大学原医研血液・腫瘍内科 ○原田浩徳  
 広島大学原医研被ばく資料部 原田結花  
 東京大学医科研細胞療法分野 北村俊雄

### 休憩 (10分)

- 重点研究「不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究」班 座長 小川誠司
21. 不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究班 班長報告 (10分) (15:21-15:31)  
 東京大学 医学部附属病院 がんゲノクスプロジェクト ○小川誠司
22. 加齢と DNA ヒドロキシメチル化 (10分) (15:31-15:41)  
 筑波大学 ○坂田(柳元) 麻実子、千葉 滋
23. 末梢血遊離 DNA を用いた遺伝子変異及びエピゲノム異常の経時的解析 (6分) (15:41-15:47)

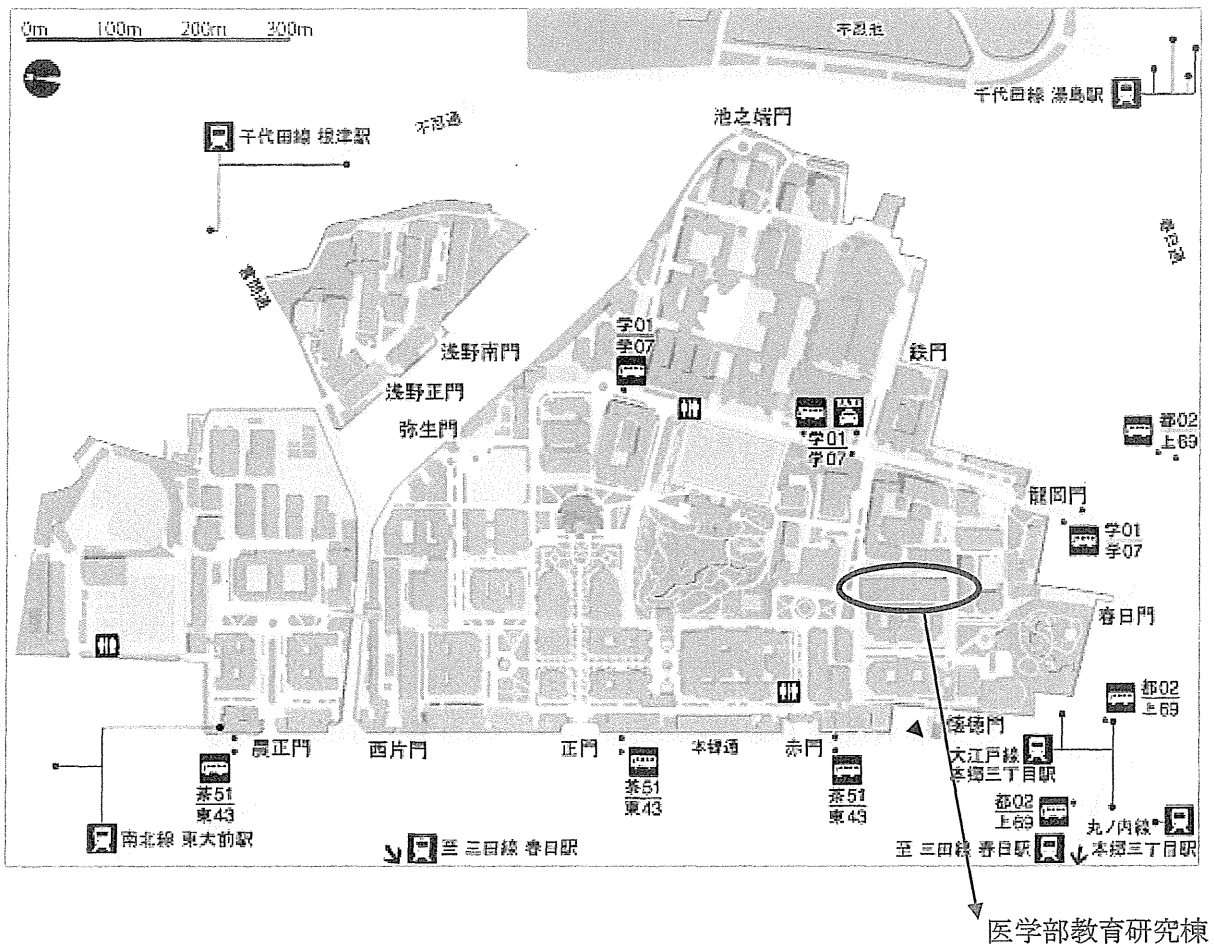
- 名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学
24. 骨髄異形成症候群に対する検体集積事業 (5分) (15:47-15:52)  
 京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学  
 獨協医科大学内科学(血液)  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト
25. 骨髄異形成症候群における 20q 欠失領域の解析 (7分) (15:52-15:59)  
 東京女子医科大学 血液内科
26. MDS における SETBP1 変異について (10分) (15:59-16:09)  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト  
 Cleveland Clinic
27. MDS の病態診断における血漿 TPO 測定の意義 (5分) (16:09-16:14)  
 金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学
28. 若年性骨髄単球性白血病における SETBP1 変異 (7分) (16:14-16:21)  
 名古屋大学小児科  
 東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト  
 東京大学医科学研究研ヒトゲノム解析センター
- 溶血性貧血領域
29. これまでの研究結果と今後の計画について (3分) (16:21-16:24)  
 大阪大学 血液・腫瘍内科
30. 本邦エクリズマブ不応 PNH 症例の解析 (10分) (16:24-16:34)  
 大阪大学 血液・腫瘍内科  
 大阪大学微生物病研究所
31. IgA/IgM 型クームス陰性 AIHA 頻度の推定 (5分) (16:34-16:39)  
 自治医科大学地域医療学センター
32. 発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)クローンの拡大機序の解析 (6分) (16:39-16:45)  
 和歌山県立医科大学 血液内科  
 熊本大学感染免疫診療部  
 熊本大学血液内科  
 熊本大学輸血・細胞治療部  
 大阪大学微生物病研究所
33. GPI アンカー欠損症研究の新展開 (10分) (16:45-16:55)  
 大阪大微生物病研究所  
 大阪市立総合医療センター  
 国立静岡てんかん・神経医療センター  
 大阪府立成人病センター
- 直江知樹、○富田章裕  
 高折晃史、○川端浩、  
 三谷絹子  
 小川誠司、真田昌  
 泉二登志子、○志関雅幸  
 小川誠司、○真田昌  
 牧島秀樹、Jaroslaw P. Maciejewski  
 ○中尾眞二、清木ゆう、丸山裕之、齊藤千鶴、  
 細川晃平、山崎宏人  
 ○村松秀城、坂口大俊、小島勢二  
 奥野友介、吉田健一、真田昌、小川誠司  
 白石友一、宮野悟  
 座長 金倉讓  
 ○金倉讓  
 金倉讓、○山本正樹、柴山浩彦、西村純一  
 木下タロウ  
 ○亀崎豊実、梶井英治  
 中熊秀喜、○花岡伸佳  
 川口辰哉  
 堀川健太郎  
 米村雄士  
 木下タロウ、村上良子  
 木下タロウ、○村上良子  
 九鬼一郎  
 高橋幸利  
 井上徳光

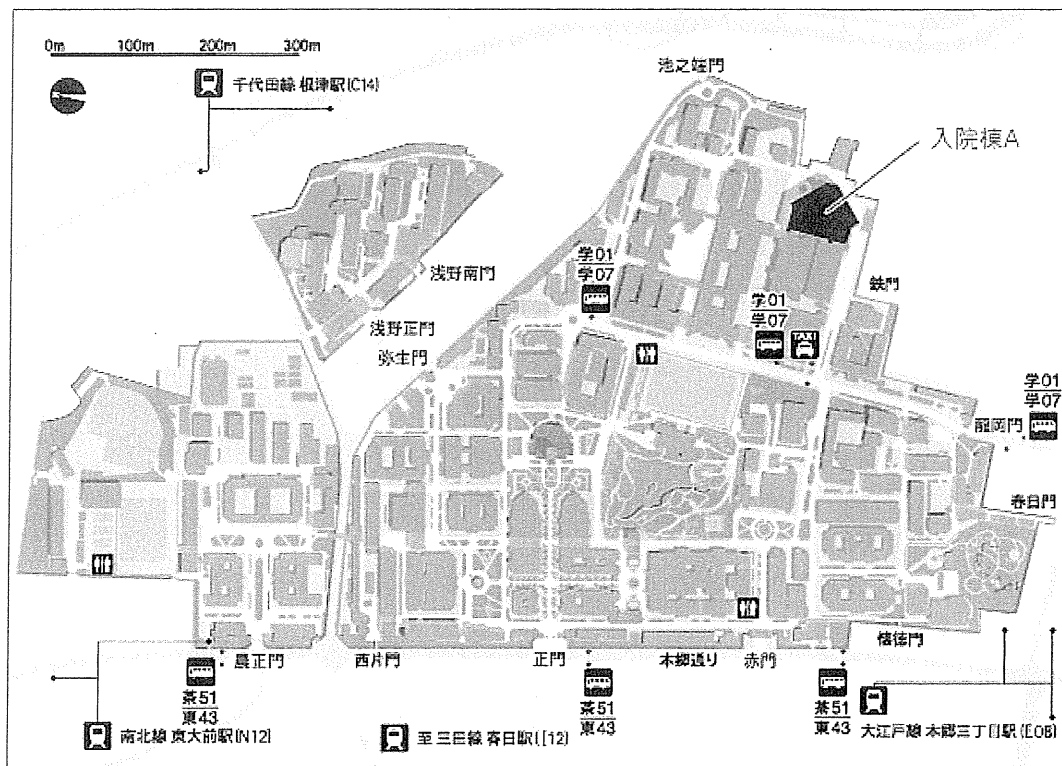
<b>小児科領域</b>	座長 中畑龍俊		
34. これまでの研究結果と今後の計画について		(3分)	(16:55-16:58)
京都大学 iPS 細胞研究所	○中畑龍俊		
35. MDS/MPN の小児545例の長期予後		(10分)	(16:58-17:08)
聖路加国際病院小児科	○真部淳		
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学	小島勢二		
東邦大学大森病院小児科	小原明		
京都大学 iPS 細胞研究所	中畑龍俊		
36. アルデヒドデヒドロゲナーゼ(ALDH2)遺伝子型による日本人ファンconi貧血患者に対する骨髄不全促進効果		(7分)	(17:08-17:15)
東海大学医学部 細胞移植再生医療科	○矢部みはる、矢部普正		
京都大学 放射線生物研究センター	平 明日香、高田 穰		
愛知県がんセンター研究所 疫学予防部	松尾 恵太郎		
37. Fanconi 貧血患者由来 iPS 細胞から初期造血分化における ALDH2 活性の影響		(15分)	(17:15-17:30)
京都大学 iPS 細胞研究所	中畑龍俊、○鈴木直也、斎藤潤		
東海大学医学部	矢部みはる		
京都大学放射線生物研究センター	高田 穰		
38. 稀少小児遺伝性血液疾患に対する原因遺伝子の探索		(10分)	(17:30-17:40)
名古屋大学小児科	○小島勢二、村松秀城、奥野友介、高橋義行		
東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト	小川誠司、吉田健一		
<b>造血幹細胞領域</b>	座長 岡本真一郎		
39. これまでの研究結果と今後の計画について		(3分)	(17:40-17:43)
慶應義塾大学 医学部 内科血液研究室	○岡本真一郎		
<b>疫学領域</b>	座長 太田晶子		
40. これまでの研究結果と今後の計画について		(3分)	(17:43-17:46)
埼玉医科大学医学部公衆衛生学	○太田晶子		
41. 再生不良性貧血の記述疫学—重症度と臨床所見の関係—		(10分)	(17:46-17:56)
埼玉医科大学医学部公衆衛生学	○太田 晶子		
国際医療福祉大学基礎医学研究センター	島田 直樹		
閉会の挨拶	黒川峰夫	(3分)	(17:56-17:59)

次回予定:平成 25 年度第一回班会議 2013 年 7 月 12 日(金) 東大構内

第二回合同班会議総会会場

医学部教育研究棟(医学部3号館隣り)14階 鉄門記念講堂





## V. 研究成果の刊行に関する一覧表



書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
荒井俊也 黒川峰夫	エピゲノム解析による血液がんの新たな分子標的の同定	木崎昌弘	造血器腫瘍とエピジェネティクス	医薬ジャーナル社	日本	2012	71-82
荒井俊也 黒川峰夫	性骨髄性白血病におけるエピジェネティック変化と治療戦略	高久史磨 小澤敬也 坂田洋一 金倉譲 小島勢二	Annual Review 血液 2013	中外医学社	日本	2012	87-92
Yokota T, Oritani K, Butz S, Ewers S, Vestweber D, Kanakura Y.	Markers for Hematopoietic Stem Cells: Histories and Recent Achievements.	Pelayo R	Advances in Hematopoietic Stem Cell Research	Intech Open Access Publisher	Croatia	2012	77-88
宮崎泰司	進行期骨髄異形成症候群の治療.	大野竜三	新しい診断と治療のABC 36 / 血液4 急性白血病[改訂第2版]	最新医学社	大阪	2012	155-162
對馬秀樹、宮崎泰司	3. MDS/AMLに対するアザシチジンの臨床応用	木崎昌弘	造血器腫瘍とエピジェネティクスー治療への応用と新たな展開ー	医薬ジャーナル社	東京	2012	177-186
宮崎泰司	第5節 骨髄異形成症候群	技術情報協会	稀少疾患/難病の診断・治療と製品開発	技術情報協会	東京	2012	628-638
中畑龍俊、丹羽明	幹細胞増幅	門脇孝、永井良三	カラー版内科学	西村書店	日本	2012	447-450
吉原宏樹、眞部淳	小児骨髄異形成症候群にみられる染色体異常とその意義		Annual Review血液 2012	中外医学社	日本	2012	59-64
亀崎豊実	溶血性貧血	安保公介、矢内正人、水野朝子	稀少疾患/難病の診断・治療と製品開発	技術情報協会	日本	2012	611-627
亀崎豊実、梶井英治	溶血性貧血	門脇孝、永井良三	カラー版内科学	西村書店	東京	2012	1366-1370
下田和哉	真性赤血球増加症, 本態性血小板血症, 原発性骨髄線維症	山口徹、北原光夫、福井次夫	今日の治療指針2012年版 私はこう治療している	金原出版社	日本	2012	574-576

下田和哉	慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性腫瘍	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学がん薬物療法専門医のために	南江堂	日本	2012	555-561
北中明、下田和哉	骨髄線維症に対する新規治療薬	高久史麿、小澤敬也、坂田洋一、金倉讓、小島勢二	Annual Review 血液 2012	中外医学社	日本	2012	124-130
亀田拓郎、下田和哉	MPNに対する分子標的療法の可能性	金倉讓、木崎昌弘、鈴木律朗、神田善伸	EBM血液疾患の治療	中外医学社	日本	2012	216-218
Harada H, Harada Y	Molecular mechanisms that produce radiation-induced or therapy-related MD33.S/AML by RUNX1/AML1 point mutations	Nakashima M, Takamura N, Suzuki K, Yamashita S	A New Challenge of Radiation Health Risk Management	Nagasaki Newspaper Publish	Japan	2012	151-160
原田結花, 原田浩徳	DNAメチル化阻害剤の開発と作用機構	木崎昌弘	造血器腫瘍とエピジェネティクス—治療への応用と新たな展開—	医薬ジャーナル社	日本	2012	49-58
原田結花, 原田浩徳	MDSに対する新規治療薬の適応と治療成績	EBM血液疾患の治療 2012-2013	金倉 讓, 木崎昌弘, 鈴木律朗, 神田善伸	中外医学社	日本	2012	30-36
矢富裕、通山薫 他7名 (分担執筆)	血液検査学	矢富裕 通山薫	標準臨床検査学シリーズ「血液検査学」	医学書院	東京	2012	
辻岡貴之、通山薫	IV. 血液像 6. 造血器腫瘍のWHO分類 2. 骨髄増殖性腫瘍、骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍	菅野治重 他	顕微鏡検査ハンドブッカー臨床に役立つ形態学	医学書院	東京	2012	231-235
通山薫	IV. 血液像 6. 造血器腫瘍のWHO分類 3. 骨髄異形成症候群	菅野治重 他	顕微鏡検査ハンドブッカー臨床に役立つ形態学	医学書院	東京	2012	235-237

田坂大象、通山薫	IV. 血液像 6. 造血器腫瘍のWHO分類 4. 急性骨髄性白血病	菅野治重 他	顕微鏡検査ハンドブック 臨床に役立つ形態学	医学書院	東京	2012	238-243
通山薫	第32回メディコピア教育講演シンポジウム記録 第1章 パネルディスカッション 「血液の機能を探る」 1. 赤血球—全身への酸素の運搬役—	矢富裕、河合忠、滝川一	メディコピア 53 血液の病気—ここまで進んだ診断と治療	富士レビオ	東京	2012	12-22
通山薫	第1章 検査値アップローチ 5. 血算・血液一般検査	日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会	臨床検査のガイドライン JSLM2012	宇宙堂八木書店	東京	2012	22-26
脇本直樹、松田晃	MDSの病態と予後因子	金倉譲、木崎昌弘、鈴木律朗、神田善伸	EBM 血液疾患の治療 2013-2013	中外医学社	日本	2012	7-14
松村到	慢性骨髄性白血病	山口徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針	医学書院	日本	2012	582-584
富田章裕	エピジェネティクス標的薬	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学—がん薬物療法専門医のために—改訂第3版	南江堂	日本	2012	316-318
富田章裕	ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるリツキシマブ体制の克服	木崎昌弘	造血器腫瘍とエピジェネティクス・治療への応用と新たな展開	医薬ジャーナル社	日本	2012	217-226

雑誌 (和文・英文とも)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
市川幹 黒川峰夫	不応性貧血(骨髄異形成症候群)	日本内科学会雑誌	101(7)	1945-1952	2012
中村文彦 黒川峰夫	白血病関連遺伝子と染色体異常	日本臨牀	70(増刊号2)	103-107	2012
片岡圭亮 黒川峰夫	骨髄移植と鉄代謝	臨床検査	56(10)	1096-1101	2012
荒井俊也 黒川峰夫	核酸医薬品	Medical Practice	29	1804-1805	2012
南谷泰仁 黒川峰夫	胃全摘後の大球性貧血の原因	日本医事新報	4586	52-53	2012
Ichikawa M, Yoshimi A, Nakagawa M, Nishimoto N, Watanabe-Okochi N, Kurokawa M.	A role for RUNX1 in hematopoiesis and myeloid leukemia. Int J Hematol.	Int J Hematol.	In press		2013
Watanabe-Okochi N, Yoshimi A, Sato T, Ikeda T, Kumano K, Taoka K, Satoh Y, Shinohara A, Tsuruta T, Masuda A, Yokota H, Yatomi Y, Takahashi K, Kitaura J, Kitamura T, Kurokawa M.	The shortest isoform of C/EBP $\beta$ , Liver inhibitory protein (LIP), collaborates with Evi1 to induce AML in a mouse BMT model.	Blood	In press		2013
Nagai Y, Osawa K, Fukushima H, Tamura Y, Aoki K, Ohya K, Yasuda H, Hikiji H, Takahashi M, Seta Y, Seo S, Kurokawa M, Kato S, Honda H, Nakamura I, Maki K, Jimi E.	p130Cas plays important roles in osteoclastic bone resorption.	J Bone Miner Res.			2013
Kanda Y, Oshima K, Kako S, Fukuda T, Uchida N, Miyamura K, Kondo Y, Nakao S, Nagafuji K, Miyamoto T, Kurokawa M, Okoshi Y, Chiba S, Ohashi Y, Takaue Y, Taniguchi S.	In vivo T-cell depletion with alemtuzumab in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: Combined results of two studies on aplastic anemia and HLA-mismatched haploidentical transplantation.	Am J Hematol.	88(4)	294-300	2013